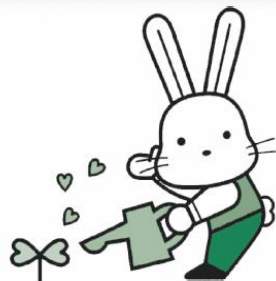


第2次福島市環境基本計画 (平成23年～令和2年度)の評価

福島市環境基本計画

みんなで創り 未来に伝える
人と自然にやさしいまち 福島市



平成23年3月

望ましい環境像

「みんなで創り 未来に伝える
人と自然にやさしいまち 福島市」

対象分野

- ①自然環境、②生活環境、③地域環境、④地球環境、⑤環境保全活動、⑥放射性物質による環境汚染

環境指標の評価アイコンの説明



目標値に
対して

100%達成

改善

横ばい

悪化

総合的な評価アイコンの説明

改善した環境 指標の割合	100%	100% 50% 以上	50% 未満	0%
目標値達成	あり	なし	—	—

1 自然環境 「生物の多様性を育む豊かな自然環境との共生」

1-1 水辺の保全と改善

目標：身近で親しみやすい水辺空間を保全・整備します。

多自然型工法河川整備延長

(目標値：24,400m)
23,850m → 24,184m



ビオトープ整備箇所数

(目標値：7箇所)
5箇所 → 13箇所



評価：◎

多自然型工法の河川整備延長は増加し、ビオトープ整備箇所数は目標値を達成しました。

課題：河川が有する生物の生息・生育環境、多様な河川景観など水辺空間の保全・整備を行い、身近で親しみやすい場所としての利用推進が必要です。

1-2 森林の保全、自然公園の保護

目標：森林の保全と活用を進め、豊かな自然環境を確保します。

林野総面積 (目標値：50,740ha)

50,395ha → 50,759ha



育成林整備面積 (市有林)

(目標値：690ha)
316.9ha → 530.6ha



評価：◎

林野総面積は目標値を達成し、育成林整備面積も増加しました。また、水林自然林がドラマのロケ地に選ばれ、利活用が図られています。

課題：森林保全や計画的な森林整備、木材の活用促進などの継続が求められます。



1 自然環境 「生物の多様性を育む豊かな自然環境との共生」

1-3 動植物の保全

目標：多様な生物が生息できる生態系を保全します。

自然保護指導員数（目標値：8人）
4人 → 4人

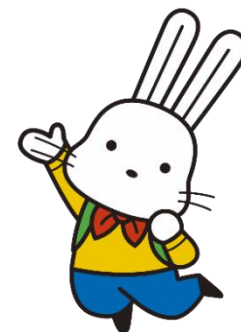


自然公園指導員数（目標値：20人）
15人 → 21人



評価： ○

自然保護指導員数は横ばいですが、自然公園指導員数は増加しました。



課題： 国や県と連携を図り、生物多様性の保全と生態系の機能の維持・向上を図ることが必要です。

1-4 農地・里山の保全と再生

目標：農地・里山の保全と再生により、自然との共生を図ります。

農家数（目標値：6300戸）
7,802戸 → 4,976戸



耕地面積（目標値：4,790ha）
6,202ha → 4,704ha



評価： ✕

農家数、耕地面積ともに目標値を下回りました。

課題： 農業の担い手の育成・確保や農用地の集積・集約などを行う必要があります。里地里山の環境を維持・回復するため、中山間地域の農業生産活動等の支援を要します。

2 生活環境 「安全・安心を支える生活環境の保全」

2-1 水資源の保全

目標：排水対策を推進し、安心・安全な水資源を保全します。

汚水処理人口普及率（目標値：87%）
78%→87.2%



河川のBOD値環境基準達成地点数
（目標値：23/23） 18/23→21/23



評価：◎

下水道の供用人口が増加し、生活排水対策が進んでいます。河川のBOD値環境基準を達成しない河川が2地点あります。

課題：流域の排水対策を進め、水質の維持・管理を図る必要があります。

2-2 大気環境の保全

目標：ばい煙、粉じん、排ガス対策を推進し、さわやかな大気環境を保全します。

市役所の次世代自動車導入台数
（目標値：21台） 7台 → 19台



評価：○

市役所の次世代自動車導入台数は増加しています。

課題：市民に向けて自動車利用に際しエコドライブを心がけるよう啓発し、良好な大気環境を維持する必要があります。

2-3 その他公害の未然防止

目標：公害の未然防止に努め、快適で安全な生活環境を確保します。

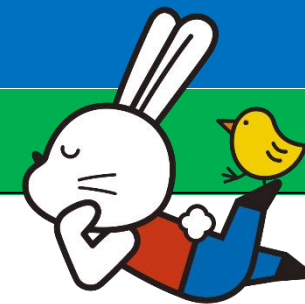
法令により改善勧告等を行わなければならないような**公害の発生がない状況が続いています。**



評価：◎

騒音・振動、悪臭、土壌汚染等の公害の未然防止が図られています。

3 地域環境 「潤いのある快適な地域環境の創出」



3-1 自然とのふれあいの場の創出、都市緑化の推進

目標：誰もが健康で快適に親しめる屋外空間を確保します。
温泉地等の観光資源活用と自然環境保護の調和を図ります。

都市公園面積

(目標値：309.95ha)

300.75ha → 321.65ha



市民1人当たりの都市公園面積

(目標値：11.50m²)

10.29m² → 11.73m²



都市公園などへの植樹本数 (累計)

(目標値：75,775本)

53,775本 → 65,275本 (R元値)



生垣設置事業補助対象延長

(目標値：8,845m)

5,105m → 6,866m



評価：◎

都市公園面積や市民1人あたりの都市公園面積が目標値を達成しました。

都市公園への植樹は、現在実施されていません。生垣設置補助対象延長について目標値に届いていません。

課題：地域バランスに配慮した公園整備等を行い緑地面積の確保を推進する必要があります。都市公園の植樹に代わり、市街地の公共施設等の緑化を進める必要があります。また生垣設置補助の積極的なPRが必要です。

3 地域環境 「潤いのある快適な地域環境の創出」

3-2 良好な景観の保全と創出

目標：すぐれた眺望を守り、「福島らしさ」を育む、暮らしを生き活きと演出する景観を創出します。

景観の保護・形成によるまちづくりを行う団体数

(目標値：2団体)

0団体 → 4団体



景観形成に関するまちづくりアドバイザー

派遣回数 (累計)

(目標値：15回)

7回 → 9回



評価：◎

景観の保護・形成によるまちづくりを行う団体数は増加しましたが、景観形成に関するまちづくりアドバイザー派遣回数は少ない状況にあります。

課題：市民に対し景観意識の啓発を図り、福島らしい景観や歴史文化を守り、育む必要があります。



評価：○

「ふくしまきれいにし隊」の登録数は増加しています。

課題：市民と市が協働で進める道路清掃活動をPRし、活動を推進する必要があります。

3-3 潤いのある都市環境の確保

目標：住民に潤いと安らぎを与える都市環境を創出します。

ふくしまきれいにし隊の登録数

(目標値：300団体)

210団体 → 236団体



4 地球環境 「かけがえのない地球を未来につなぐ配慮」

4-1 地球環境の保全

目標：地球環境を正しく認識し、地球環境の保全に向けた取り組みを進めます。

温室効果ガスの排出量

(目標値：1,840 千t-CO₂)

2,165 → 1,977 千t-CO₂
(H19) (H30)



評価：○

本市における温室効果ガスの排出量は、廃棄物以外の部門（産業、家庭、業務、運輸）で基準年度を下回り、8.7%削減されています。

課題：増加傾向にある運輸部門を中心に更なる排出量の削減が必要です。

4-2 省資源・省エネルギーの推進

目標：限りある資源・エネルギーの有効活用を図ります。

家庭における電力・ガス※由来の1世帯当たり年間CO₂排出量

(目標値：2,627 kg-CO₂)

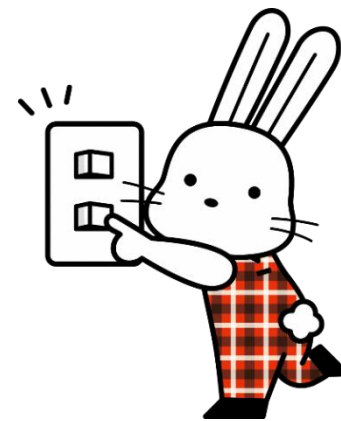
3,092 → 3,070 kg-CO₂
(H19) (R2)



評価：○

基準年度に比べ、わずかに減少し、0.7%の削減となっています。

課題：省エネルギー設備等の導入や省エネルギー型のライフスタイルへの移行を進める必要があります。



※ガスは都市ガス由来分を算出。

4 地球環境 「かけがえのない地球を未来につなぐ配慮」

4-3 再生可能エネルギーの有効利用の推進

目標：再生可能エネルギーの積極的な活用を図り、環境への負荷を減らします。

市の公共施設への太陽光発電システムの
導入箇所数 (目標値：16箇所)
4箇所 → 17箇所



市の公共施設への小水力発電システムの
導入箇所数 (目標値：2箇所)
0箇所 → 3箇所



市の公共施設へのその他再生可能
エネルギーシステム導入箇所数
(目標値：7箇所)
5箇所 → 6箇所



住宅用太陽光発電システム設置箇所数
(目標値：9,000箇所)
3,188箇所 → 7,682箇所



評価： ◎

市の公共施設への再生可能エネルギーの導入は進んでいますが、住宅用太陽光発電システムの設置件数の伸びは鈍化傾向にあります。

課題：本市の地域特性に応じた、多様な再生可能エネルギーの導入を積極的に進めていくことが重要です。



清水学習センターの太陽光発電設備

4 地球環境 「かけがえのない地球を未来につなぐ配慮」

4-4 循環型社会の推進

目標：廃棄物の減量とリサイクルを推進し、循環型社会の構築を目指します。

ごみの総排出量

(目標値：91,600t)

116,567 t → 111,456 t



市民1人1日あたりのごみ排出量

(目標値：890g)

1,086 g → 1,107 g



再資源化量

(目標値：26,900t)

18,388 t → 11,469 t



リサイクル率

(目標値：26.0%)

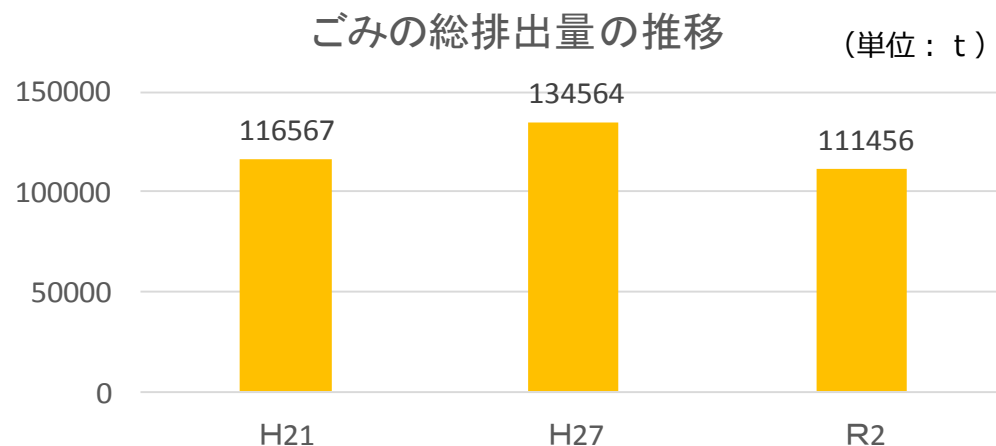
15.3% → 10.2%



評価：△

ごみの総排出量は、平成21年に比べ減少しています。一方、市民1人1日あたりのごみ排出量は平成21年に比べ増加し、令和元年度には全国平均と比較して約1.2倍の排出量となっています。再資源化量とリサイクル率は、東日本大震災の影響や資源化ルートが多様化により、平成23年度以降、ともに減少傾向にあります。

課題：本市の特性に応じたごみの減量化と3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進するため、市民への啓発を行う必要があります。



5 環境保全活動 「みんなで協働して取り組む環境保全の活動」

5-1 環境教育・環境学習の推進

目標：環境教育・環境学習を推進し、環境保全への意識を向上させます。

自然観測会、自然体験講座等の開催数

(目標値：毎年100回以上)

117回 → 285回



評価：◎

各種講座が多数開催されています。

課題：市民のあらゆる年齢層や学習段階に応じた環境教育を進め、あわせて環境に関する情報を発信する必要があります。

5-2 環境保全活動の推進

目標：市民、事業者、団体による環境保全活動を推進します。

こどもエコクラブ参加者数(累計)

(目標値：500人) 52人→326人

きれいなまちづくり参加人数(累計)(目標値：

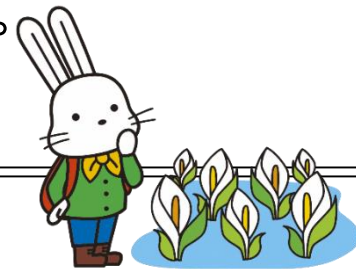
5,000,000人) 3,113,929人→4,135,671人



評価：○

市民等による環境保全活動が着実に増加しています。

課題：地域の環境保全活動やボランティア活動を推進・支援する必要があります。



5-3 ネットワーク形成の推進

目標：ネットワーク形成により、環境保全活動の輪を広げます。

環境基本計画推進協議会の団体数

(目標値：50団体) 0団体→13団体



評価：○

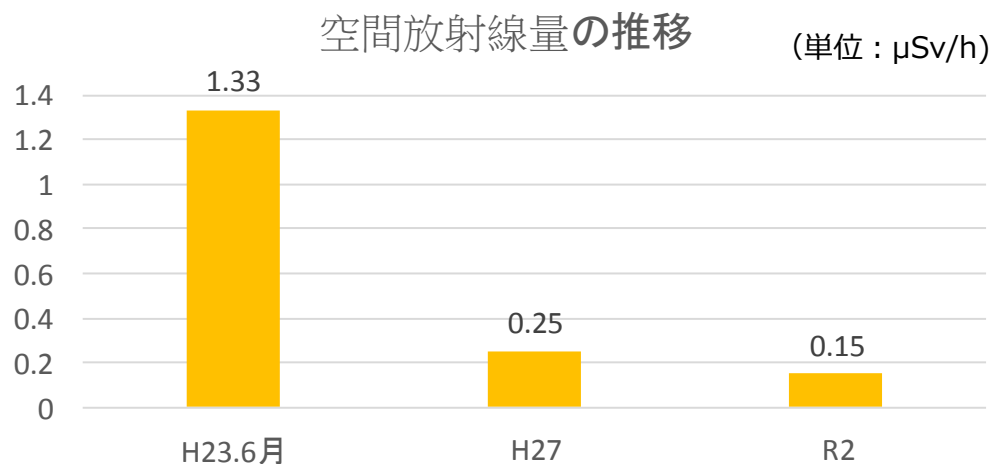
協議会(H25発足)の団体数が増加しています。

課題：市民、事業者、市が連携・協力して環境保全を進める体制を構築する必要があります。

6 放射性物質による環境汚染への取り組み

6-1 空間放射線量のモニタリング

目標：空間放射線量のモニタリングを継続して実施し分かりやすい情報を提供します。



6-2 農作物や飲用水のモニタリング

目標：食品等の放射性物質の調査を実施し、結果を速やかに公表します。



食品等の放射性物質
測定の様子

評価：なし(目標値を設定していないため)

市役所や支所、小・中学校等において定期的に測定を行い、また全市放射線量測定マップを作成し、公表することにより、放射線による外部被ばくの不安軽減を図りました。

食の安全確保のために、出荷・販売を目的とする農産物の自主検査を実施したほか、出荷・販売をしない市民持ち込みによる食品の測定を実施し、食品による内部被ばくの不安解消を図りました。

課題：引き続きモニタリングを実施し、市民の健康管理を進めることで放射線に対する市民の不安軽減を図る必要があります。



残された課題 1

地球温暖化と気候変動

- ・気温の上昇や豪雨の頻発といった気候変動の影響が拡大する恐れ
- ・温室効果ガスの削減と気候変動の影響への備えの推進

持続可能な循環型社会の構築

- ・本市の1人1日あたりのごみの排出量は全国的にみて多い状況
- ・海洋プラスチックごみや食品ロスの削減など新たな課題への対応

自然環境

- ・生物多様性の確保・維持
- ・公園整備や緑化促進、水辺空間の保全・整備
- ・林業従事者の減少で適切な森林管理が困難に
- ・農業の担い手不足、耕地面積の減少、耕作放棄地の増加



令和元年台風19号の被害の様子
(市内郷野目)



ごみの収集運搬

残された課題 2

生活環境

- ・自動車による大気汚染や騒音・振動、生活排水による水質汚濁など、日常生活における「都市型公害」への対応
- ・大気や海洋汚染などの発生源の広範化



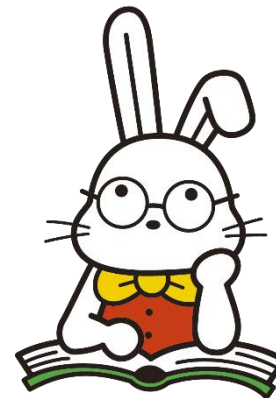
河川の水質調査

原子力災害からの環境再生

- ・除去土壌の搬出
- ・山で採れた山菜やキノコの出荷制限
- ・健康不安、農作物の風評払拭

地域づくり・人づくり

- ・地域特性を活かした景観の形成
- ・地域づくりの担い手となる人材の育成
- ・環境保全活動の更なる推進



除去土壌の搬出（仮置き場）